

## 生活圏域ケアマネジャー学習会より



紫竹・大宮・待鳳学区のケアマネジャーの2012年度最後の学習会は、「事例を通して学ぶ生活保護と障害施策」をテーマに行われ32名の参加でした。(2月19日開催)

以下の記事は、福祉事務所係長(上田氏、石丸氏)の説明内容を参考にして作成しました。

介護支援事業所今宮の谷口さんより事例提供がありました。53歳一人暮らし、障害手帳2級と介護保険第2号を併せ持つ男性が、失業保険が切れたのを機に、生活保護を受給することになった事例でした。

まずは医療受診について、男性はかかりつけ医があるが別の大病院を受診したい希望がありました。しかし医療券の発行が認められませんでした。また介護保険でレンタルしていた歩行器が、障害者施策が優先されたために現物給付されることになりましたが、同じものは金額超過のために給付されませんでした。支援保護課保護第二係長の上田正栄氏より、生活保護の制度全般についての説明が行われました。

医療受診については、生活保護の医療券発行は1傷病1医療機関が基本であり、別の医療機関で重複した治療が認められていないことが説明されました。

続いて支援保護課支援第二係長の石丸陽二氏より、65歳未満の生活保護受給者は介護保険よりも障害施策が優先され、障害施策にないものは介護保険対象となることや、障害施策から介護保険に切り替わる時にトラブル等が多いこと等説明がありました。(費用負担や家族が同居だと家事援助できない等)質疑応答で貧困ケースの紹介がありました。無職の子供が親の年金を使い込んで介護サービスの利用料の支払いを滞納。子供が生保適用可能かどうかの質問に、第三者ではなく子供本人が生保申請の相談にすることが必要とのアドバイスを受けました。



生活保護、障害施策学習風景

今回は生活保護制度と障害保健制度、介護保険制度が複雑に絡んだ事例でした。感想の中で、介護保険だけではなく生活保護や障害保健福祉制度等幅広く知っておく必要性を感じた等の意見が多く寄せられました。

私たちケアマネジャーは、住み慣れた地域の中で暮らし

## 高齢者に多い病気：COPD

(シーオーピーディー)

田中医院(内科・呼吸器科) 田中 嘉人

聞きなれない病名かもしれませんがCOPDは以前、「慢性閉塞性肺疾患」と難しい名前と呼ばれていました。一般的には覚えにくいと言うことで、COPDと呼ぶようになりました。タレントの和田アキコさんや長谷部瞳さんなどがテレビでお知らせしている病気です。

COPDはタバコとの関係がよく言われ禁煙が勧められますが、タバコだけでなく肺の加齢変化も大きく関与します。タバコを吸わない方も歳を重ねるたびに、症状が無くても肺の老化現象としてCOPDの変化は生じています。進行すると酸素を吸わなければならない病気で、肺だけでなく全身に影響が及ぶ病気と言われています。

治療はCOPDの進行を遅らすことが主になるため、早くに治療を開始することが重要です。階段を上がると息切れがする、人と一緒に歩いても息切れで歩みが遅れてしまう場合はCOPDの症状が来い



ると思って医療機関を受診してください。また息切れが無くても、咳や痰がよく出るという症状はCOPDになっていく症状と考えられます。歯磨きのあとの痰などいつもの事と思わずかかりつけの先生にご相談ください。

検査は胸のレントゲン写真、肺機能検査などがあります。どれも痛くない手軽な検査です。2013年度から厚生労働省の「健康21」第2次計画にCOPDが項目として取り上げられました。わが国ではCOPDの患者数を530万人と推定していますが、大半は未受診、未治療と考えられています。

インフルエンザ、肺炎はCOPDの進行、悪化につながりますので、インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン接種が推奨されています。タバコを吸わない方も、特にタバコを吸う方はワクチン接種の時にでもCOPDについてかかりつけ医の先生にご相談してみてください。

続けたいと願う利用者に寄り添って支援を行っています。そのために様々な社会保障制度や社会資源を知り活用すること、制度そのものを拡充することが必要だと思います。住み続けたい紫竹・待鳳・大宮学区の町づくりに寄与できるように今後も学び合っていきたいと思います。